MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省
北海道農政事務所

選考採用（事務系）
業務説明会資料

2024年８月

農林水産省
北海道農政事務所

お伝えしたいポイント①

○北海道農政事務所は**農林水産省の地方機関**であり、
北海道を管轄しています。

○農林水産省では**選考採用（経験者採用）を積極的に実施**し、
国家公務員一般職**（係長級）相当の正職員**として採用しています。
北海道農政事務所でも**約40名の選考採用者**が活躍しています。

○2024年度の**選考採用試験は、８月１日～９月30日に募集**し、
書類審査（履歴書、小論文等）、適性検査、面接試験により
選考します。
※筆記試験はありません。

【主な応募資格】

・**大学、短期大学、高等専門学校若しくは高等学校を卒業**した者及び
これらと同等以上の学力を有すると認められる者
・**一定の職務経験**を有する者（大学を卒業した者は７年以上等）

お伝えしたいポイント②

○**農林水産省は、**食料の安定供給、農林水産業・食品産業の発展、食の安全確保、農林水産物・食品の輸出促進など**幅広い政策**を担っており、
「食」と「環境」を核として、**幅広いフィールドで活躍**できます。

○**選考採用者の職歴は様々**であり、**公務員**、**小売・卸売、教育、旅行、サービス、不動産、農林水産**などの様々な業種から転職しています。

○**過去に農業・食品関係、公務関係の経験が全くない場合でも採用**しています。
（何らかの形で前職経験を活かせる職場です。）
もちろん、**農業・食品関係、公務関係の職歴がある方は大歓迎**です。

お伝えしたいポイント③

○**転勤範囲は基本的に北海道内**（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）です。
なお、能力や希望に応じて本省（霞が関）での勤務を経験できる可能性もあります。

○**おおむね２年程度ごとに様々なポストを経験**していただきながら、**将来的に、自分にあった分野のスペシャリスト**や**幅広い知識を持ったゼネラリスト**になっていただきます。

○**残業は比較的少なく**、**休暇も取りやすい**職場のため、**プライベートの時間が確保**できます。

○**育児、介護等との両立**が必要となった際には、**時差出勤、短時間勤務、育児休業、介護休業**等が可能であり、**職員が働きやすい職場**を目指しています。

今日お話すること

1．農林水産省のミッション

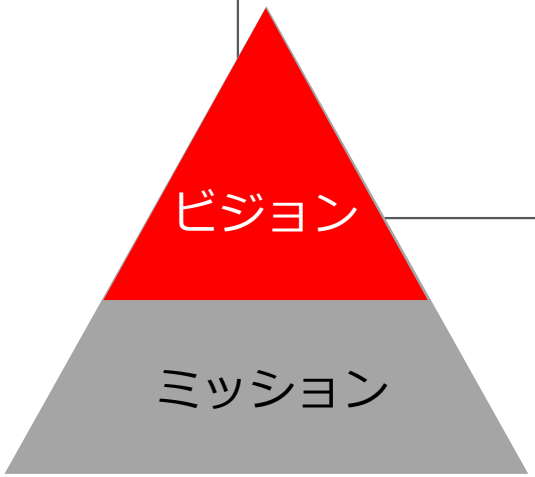
2．職場環境

3．選考採用職員の紹介

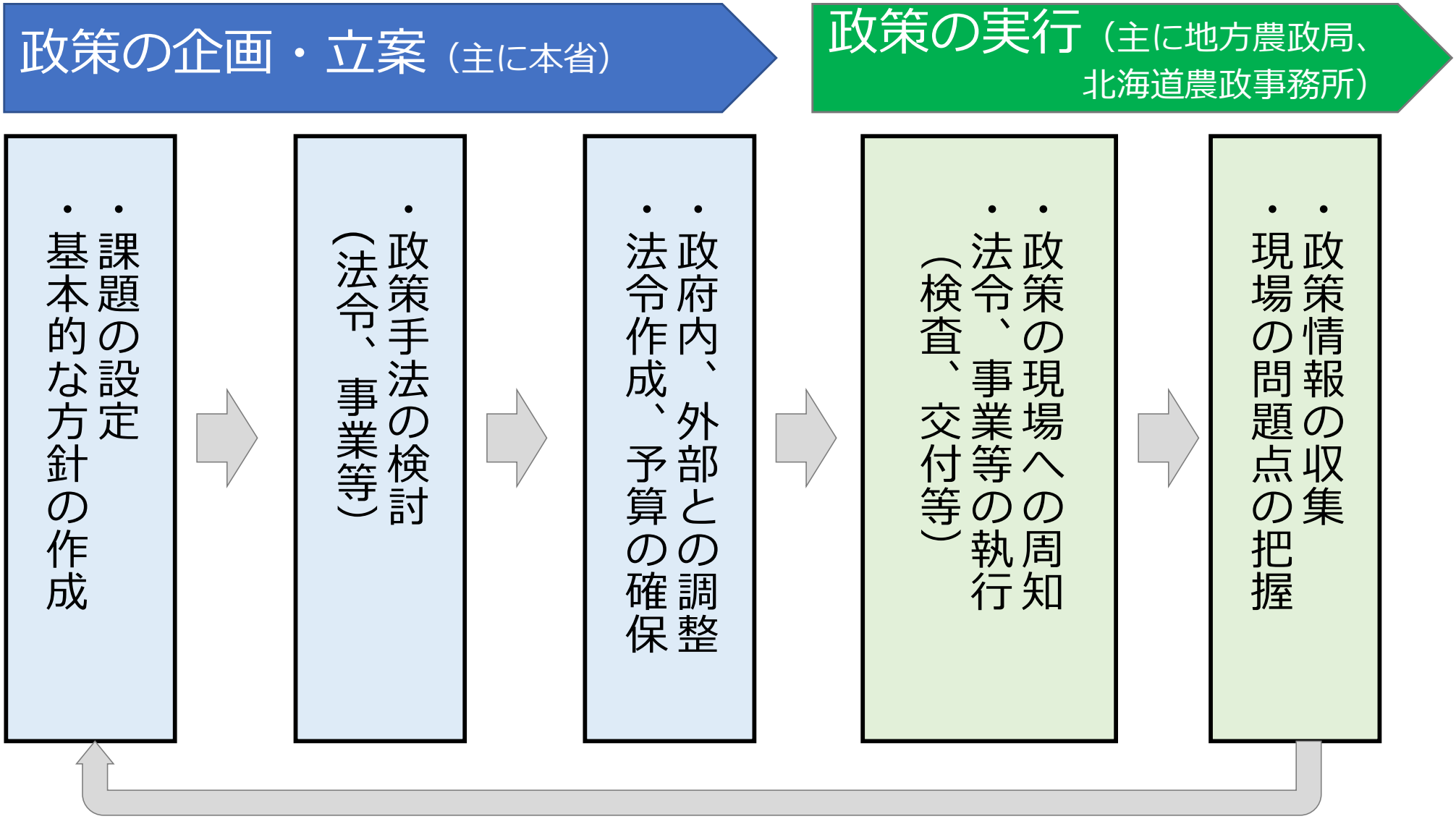
農林水産省は何のために存在しているか

- 農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
生命（いのち）を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。



農林水産行政の流れ


政策の企画・立案（主に本省）
政策の実行（主に地方農政局、北海道農政事務所）
・課題の設定
・基本的な方針の作成
・政策手法の検討（法令、事業等）
・政府内、外部との調整
・法令作成、予算の確保
・政策の現場への周知
・法令、事業等の執行（検査、交付等）
・政策情報の収集
・現場の問題点の把握

～生産現場を支える（農産物）～

- 農産物の生産の振興
- 農業技術の普及
- 良質・低廉な農業生産資材（機械・肥料等）の供給と効率利用
- 環境保全型農業の推進
- ＧＡＰ（農業生産工程管理）の普及

ＧＡＰの普及

農産物の生産振興

農業技術
の普及

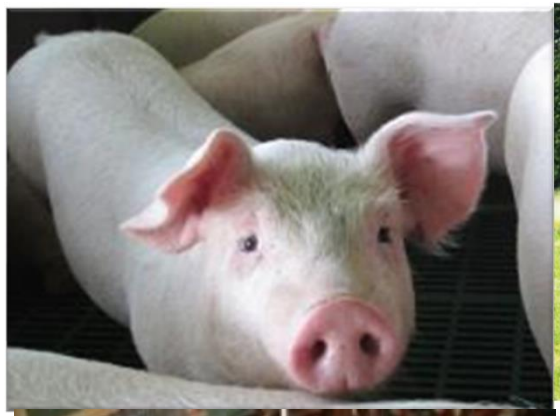
～生産現場を支える（畜産物）～

- 畜産物の生産の振興
- 生産技術の普及
- 環境問題（家畜の糞尿など）の改善
- ＧＡＰ（農業生産工程管理）の普及
- 飼料供給の確保
- 競馬の運営の指導監督

技術の普及

発情を自動で通知

畜産物の生産振興

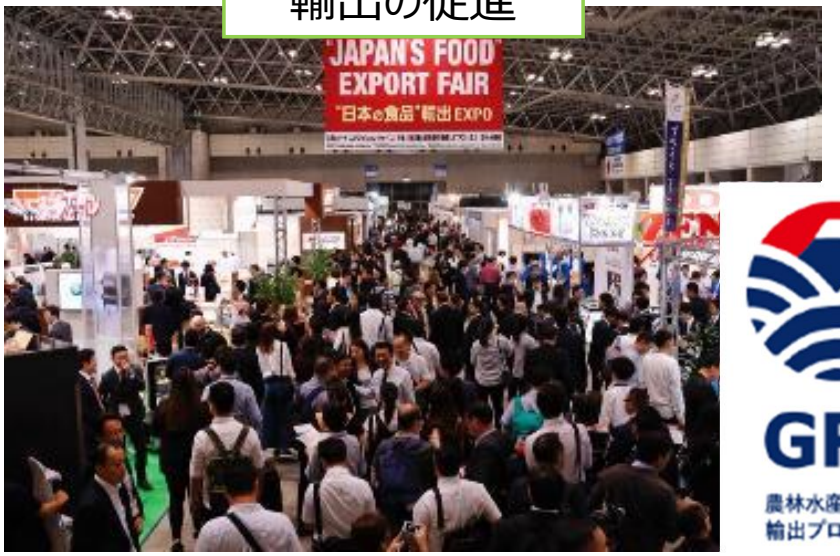


競馬

～食のマーケットを拡げる～

- 農産物等の輸出拡大
- 食文化の発信
- 知財の保護・活用、規格・認証（JAS、HACCP）の戦略的活用
- 二国間経済外交等による輸出入環境整備
- 海外開発協力

輸出の促進



GFP
農林水産物・食品
輸出プロジェクト

経済外交

知的財産の保護・活用

JAPAN GEOGRAPHICAL INDICATION
日本
地理的表示
GI

食文化の発信

Let's! 和ごはん

～次世代を育てる～

- 新規就農対策
- 担い手への農地集積・集約化
- 担い手に対する金融・税制支援
- 収入保険・農業共済

新規就農対策
（後継者育成）

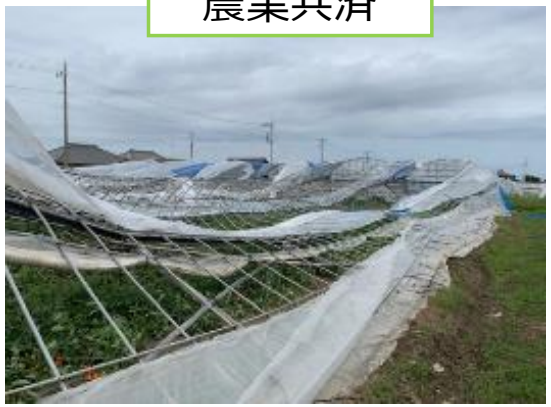
担い手育成（女性農業者の活躍推進）

収入保険

新規就農対策
（農業教育）

農地の集積・集約化

農業共済



～食の安全を守る～

- 食品の安全性向上
- 植物・動物防疫対策
- 食品表示の適正化
- 食育

食品の安全性向上

植物・動物防疫

Codex委員会

食育の推進

地方機関での仕事風景①

有機農業に取り組む生産者との意見交換
@北海道農政事務所

出前授業「学生と考えるみどりの食料システム戦略」@北海道農政事務所

高収益作物の生産・需要拡大現地検討会の様子
@近畿農政局

麦・大豆に関連する支援策（補助事業）の説明
@九州農政局

地方機関での仕事風景②

災害対応

政務出張随行

生産者説明会

資料作成

打合せ

情報収集

補助事業関連視察

BUZZMAFF撮影

電話対応

データ整理

PRイベント

自治体説明会

オンライン会議

今日お話すること

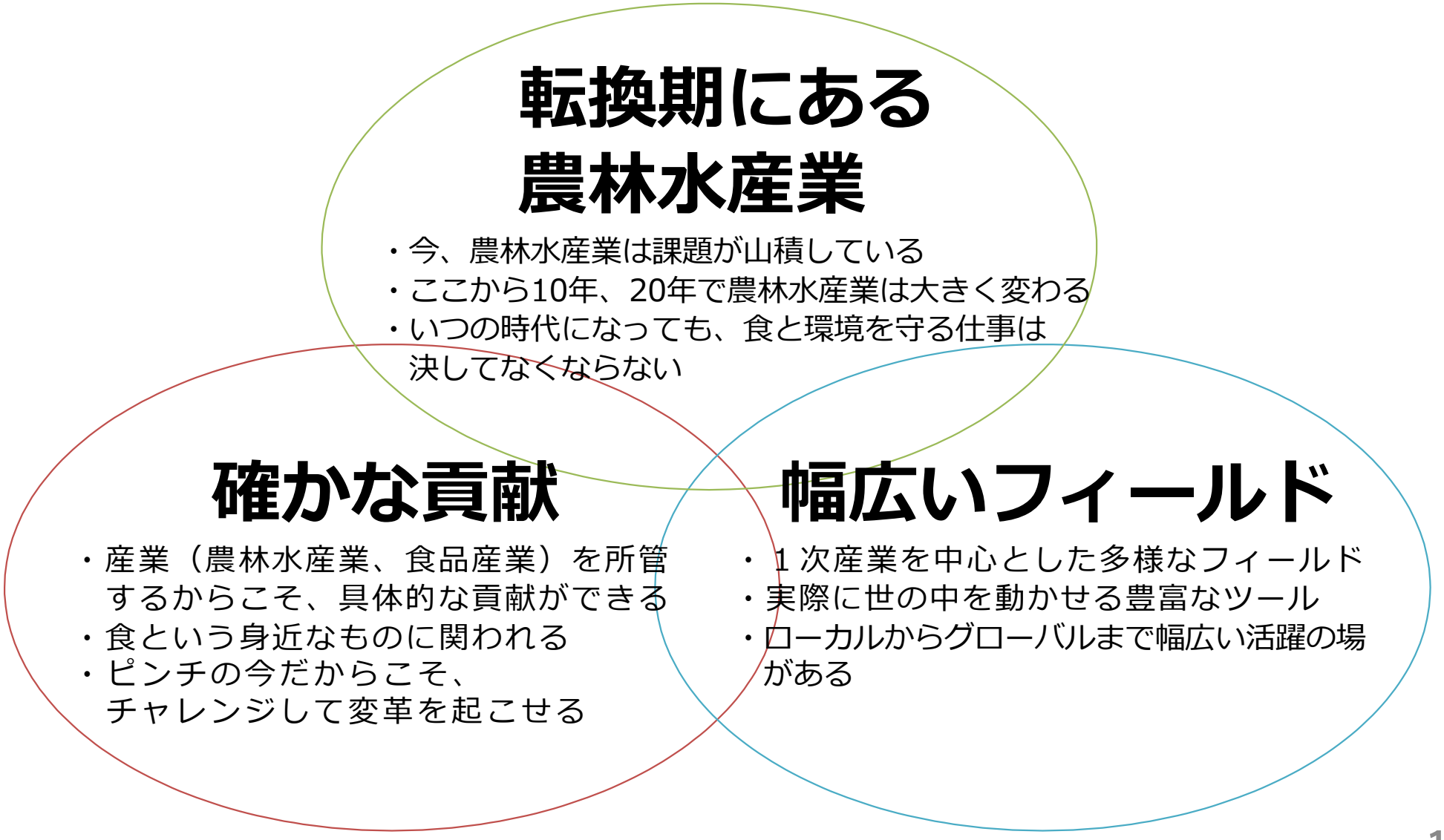
１．農林水産省のミッション

２．職場環境

３．選考採用職員の紹介

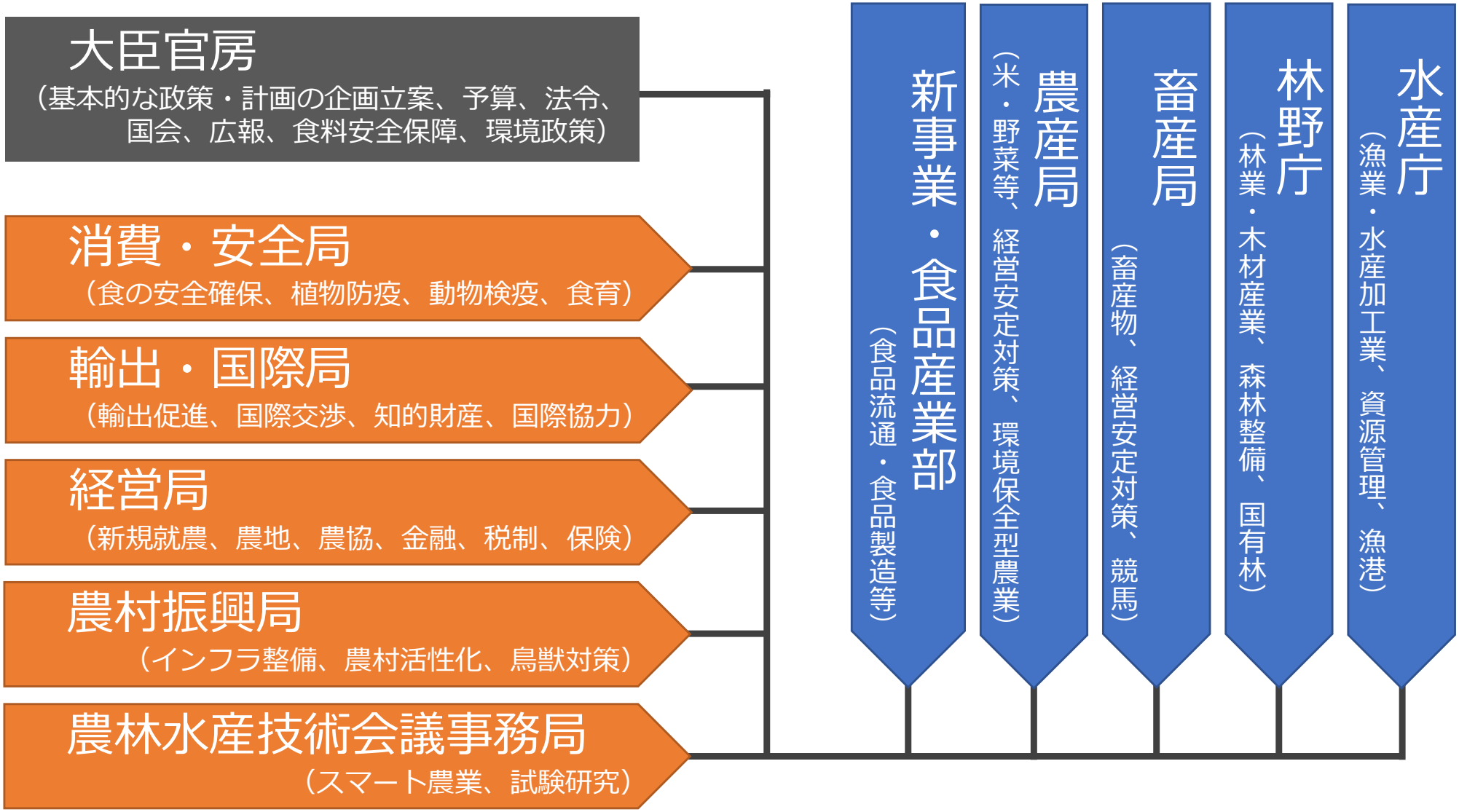
農林水産省の魅力

大きな転換期にある社会課題（食・農林水産業）に
幅広いフィールドで確かな貢献ができる。



本省の組織

それぞれの**品目**（米、肉、魚など）の産業振興を行いながら**【縦軸】**、
全ての品目に**共通する課題**（環境、防疫、国際交渉、新規就農、インフラ整備など）
については、品目横断的に政策を打ち出しています**【横軸】**。



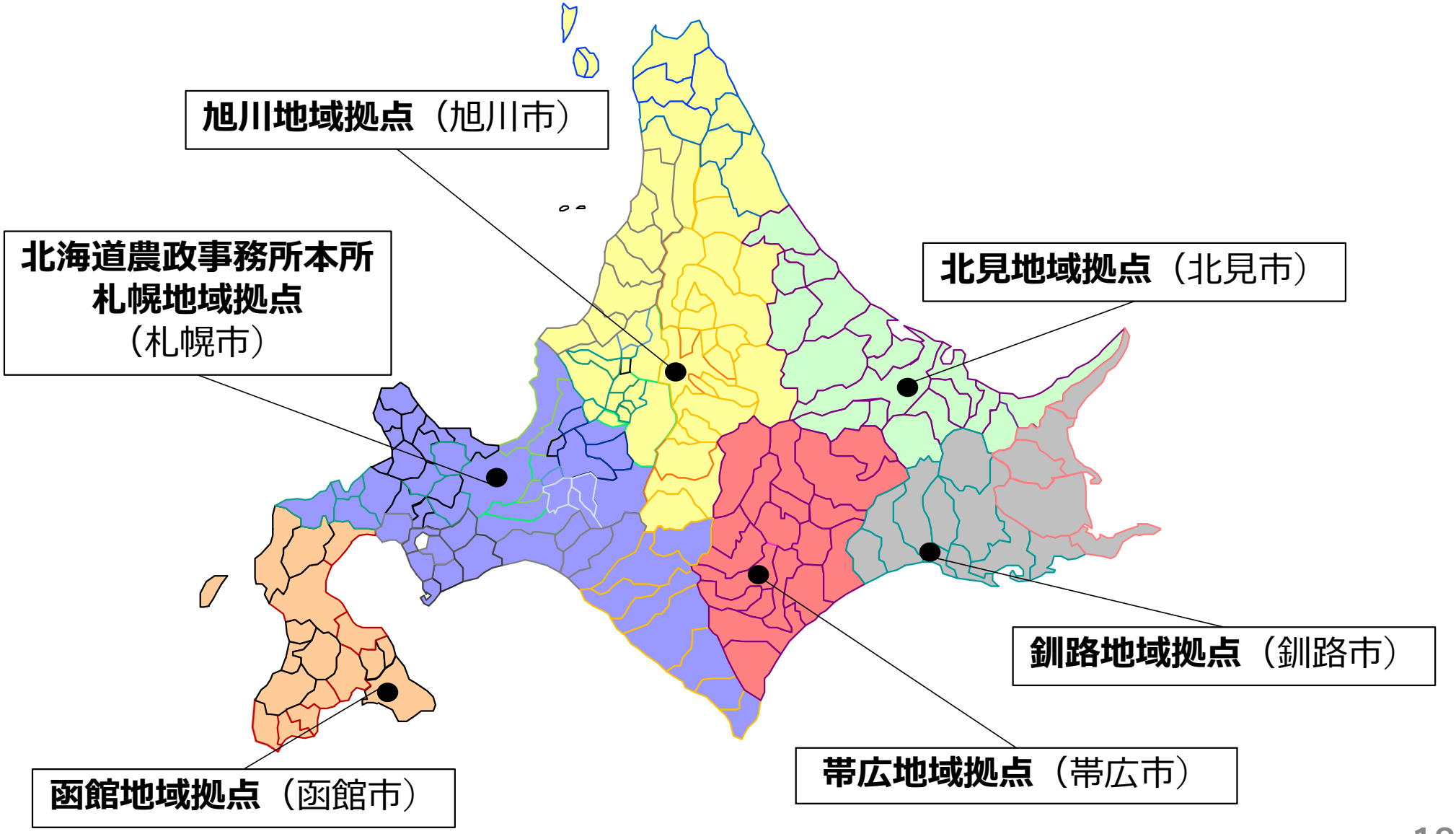
北海道農政事務所の組織

北海道農政事務所

- **企画調整室**
  - ・各種政策の推進・調整・広報、防災対策の事務等
- **総務管理官**
  - **総　務　課**
  - **会　計　課**
  - ・公文書類、個人情報の保護、職員の福利厚生、人事等
  - ・予算の執行、支出の決定、物品の管理、売買等の契約、営繕及び庁舎内の管理
- **生産経営産業部**
  - **生産支援課**
  - **業務管理課**
  - **担い手育成課**
  - **事業支援課**
  - ・農畜産物の生産振興対策、米穀の需給計画・生産調整等
  - ・主要食糧の集荷、買入れ、保管及び売渡し
  - ・経営所得安定対策の推進及び交付金の支出・決定
  - ・農林水産物・食品の輸出対策、再生可能エネルギー、バイオマスその他の資源の有効な利用の確保
- **消費・安全部**
  - **消費生活課**
  - **米穀流通・食品表示監視課**
  - **農産安全管理課**
  - **畜水産安全管理課**
  - ・食の安全に関する情報の受発信
  - ・食品表示適正化による消費者への的確な情報の伝達・提供
  - ・米の適正な流通に向けた監視
  - ・牛トレーサビリティ制度や農畜水産物の安全性などの確保
- **統計部**
  - **調整課**
  - **統計企画課**
  - **経営・構造統計課**
  - **生産流通消費統計課**
  - ・統計の広報及び普及
  - ・統計データの加工・分析、結果等の提供
  - ・農林漁業の経営・構造の実態把握
  - ・農林水産物の生産・流通・加工・消費の実態把握
- **地域拠点（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）**
  - ・現場と農政を結ぶ業務

北海道農政事務所の組織

北海道農政事務所は、**本所（札幌市）と６箇所の地域拠点（札幌、函館、旭川、釧路、帯広、北見）**で構成され、全道で**400名以上の職員**が働いています。



職場環境の改善

○　全職員に持ち出し可能な端末が配布され、全職員が新しいソフトウェア（**Microsoft M365 E5（Teams等）**）を活用できるシステム環境となっています。

通信環境が大幅に改善！

・広帯域で高セキュリティの回線が配備。
・庁舎内LANは、高速なWifi（Wifi6）通信が可能に

すべて持ち出し可能な端末に！

・全職員に、高機能、高セキュリティ機能を備え軽量端末が配布
・庁舎外でも携帯電話の電波が届く場所であれば、業務が可能

コロナを経て働き方が変革しています！！

Teams等の利用で働き方が変革！

・Teamsは、チャット、ウェブ会議、ファイル共有、ファイルの共同編集といった機能が集約された新しいコミュニケーションツール
・ライセンスは全職員に配布され、誰でもウェブ会議を開催

・Teamsのほか、データ分析ができるPowerBI、業務を自動化できるPowerAutomateなども全職員利用可能

BYODで外出先でもコミュニケーションOK！

・私物スマートフォンに、Teamsなどのアプリケーションをインストールすることが可能
・これにより、外出中でも、チーム会合に参加することが可能。また、写真などの映像をTeamsに投稿することができるので、例えば、災害現場の状況などをリアルタイムに報告することが可能

（注）BYOD：私物端末の業務利用

ワークライフバランス

○男性・女性職員ともに、生き生きと輝ける働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

農林水産省
育休取得率　男性：81.3%、女性：102.7%
（2022年度）

（参考）
外務省　男：41.9%、女：96.8%
文科省　男：32.1%、女：86.7%
厚労省　男：92.5%、女：98.5%
経産省　男：67.0%、女：106.7%
国交省　男：66.6%、女：98.0%

▶ 2022年度から、子どもが生まれた男性職員は「１ヶ月以上育児に伴う休暇・休業を取得する」ことが前提となり、省全体で男性の育児休業取得を推進しています。

（例）育児と両立する場合

【女性】出産～育児休業
・産前休暇（産前6週間前から出産の日まで）
・産後休暇（出産の翌日から8週間）
・育児休業（子が3歳に達するまで）

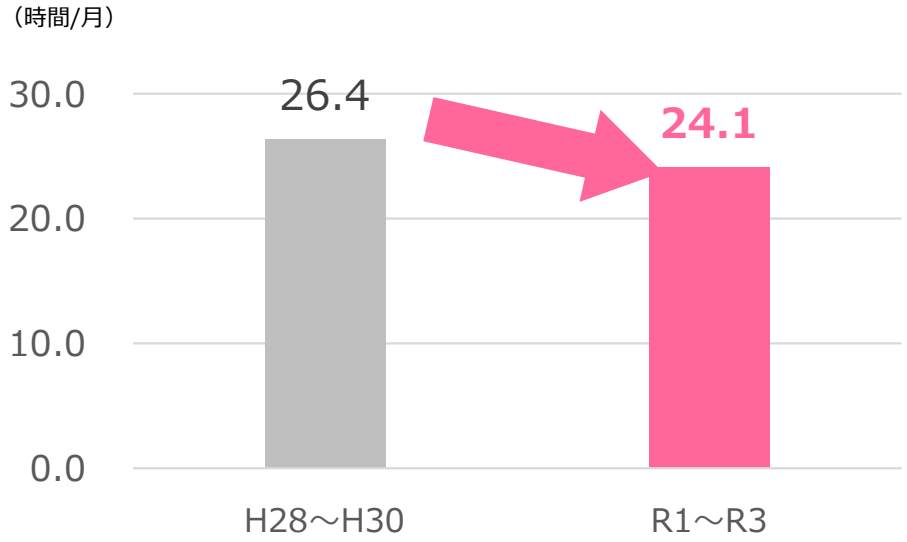
【男性】配偶者の出産～育児休業
・配偶者出産休暇（出産時の付き添いで２日）
・育児参加のための休暇（妻の産前産後期間中に5日）
・育児休業（子が３歳に達するまで）

▼ ▼

【育児休業復帰後】仕事と育児の両立
・育児短時間勤務（通常よりも短い勤務時間で勤務）
・子の看護休暇（年5日）
・テレワーク、フレックスタイム制

職員の働き方（働き方改革）

○　超過勤務時間は減少傾向



出典：農林水産省HPを基に作成

○　職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

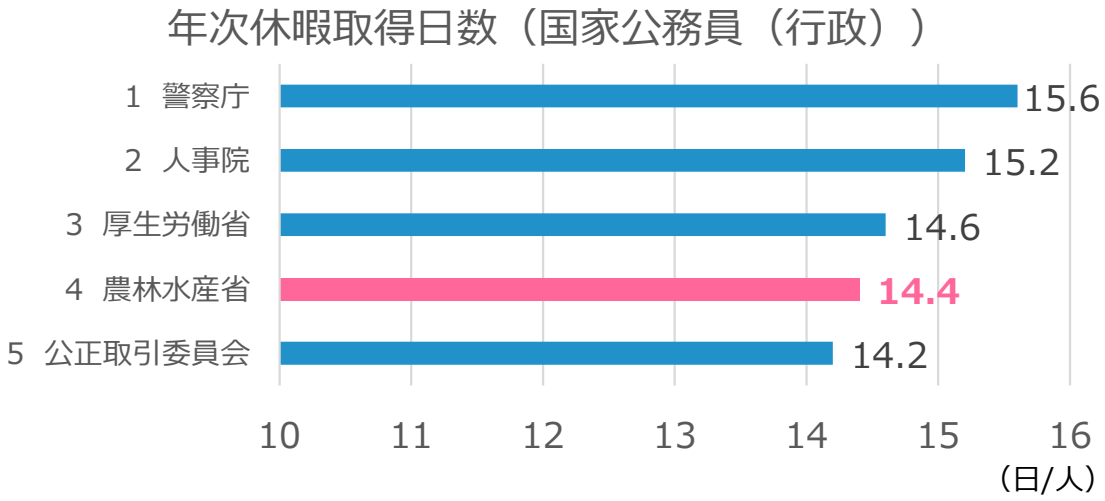
本省（常勤職員）	25.0時間
地方機関（常勤職員）	6.5時間
合　計	11.1時間

※令和３年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。

出典：農林水産省HP

○　休暇取得

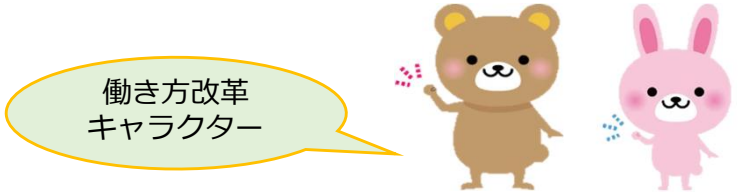
一人当たりの年次休暇取得日数は、全省庁で４番目



出典：内閣府男女共同参画局　女性活躍推進法「見える化」サイト

○　多様な働き方～テレワーク等～

・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
・令和２年度実績では、テレワークの実施回数が多い府省（本省）で農林水産省は全省庁で３番目（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。



人材育成・研修

新規採用者向け研修

入省１年目の職員を対象に４月に開催します。
公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識等を学びます。

農村派遣研修

入省２年目に在職する職員を**農家の元に5日間派遣**し、**農林水産業の実情を経験**する研修

職員向け研修等

北海道農政事務所では**能力向上、知識習得のための様々な研修に参加可能**であり、**対面**研修のほか、**オンライン**研修も充実しています。

定着促進の取組として、2024年度に**選考採用者同士の座談会**を初めて開催しました。
参加者からは、**「選考採用者間のつながりができた」「それぞれが抱えている悩みや解決策を知ることができてよかった」**などの声がありました。

選考採用者座談会

農村派遣研修

農村派遣研修

座学研修

今日お話すること

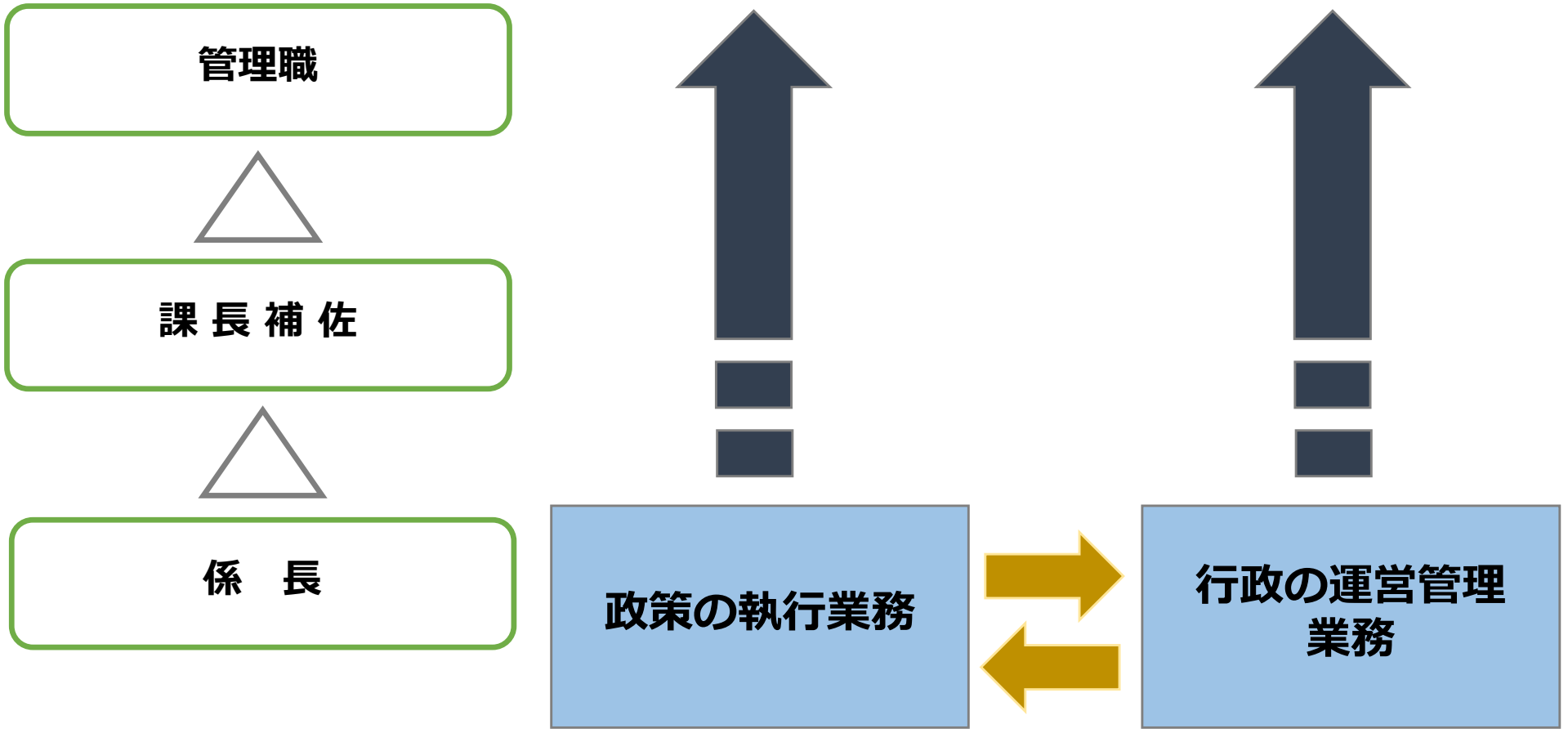
１．農林水産省のミッション

２．職場環境

３．選考採用職員の紹介

選考採用職員のキャリアパス（北海道農政事務所・事務系）

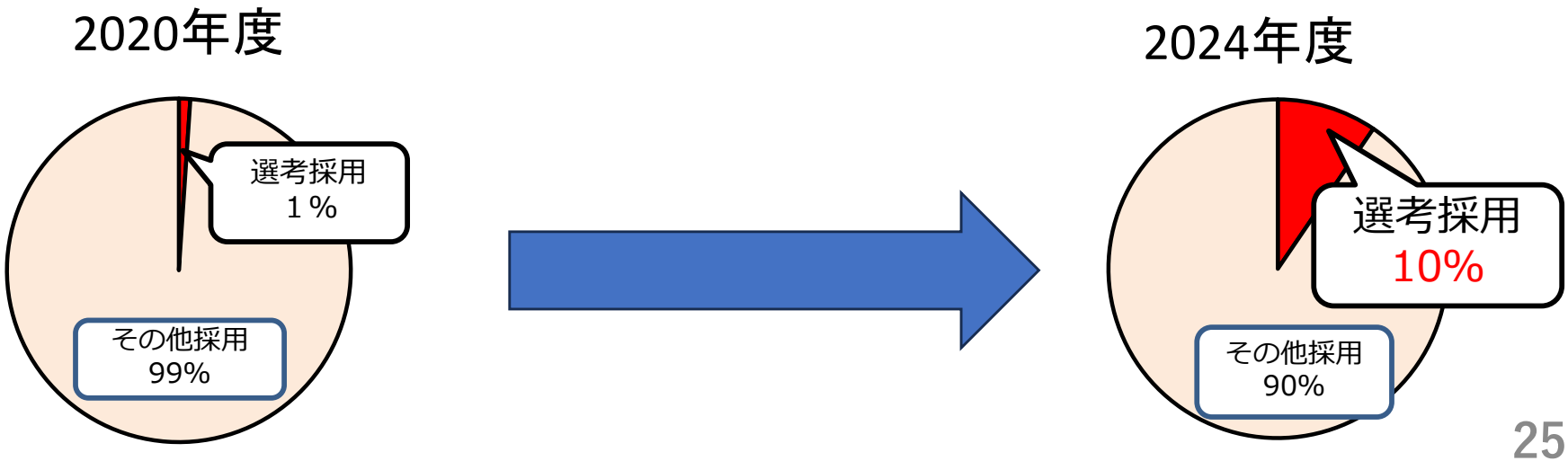
主に**北海道農政事務所本所及び地域拠点を中心に異動**してもらいます。
本人の希望を踏まえた上で、おおむね**２年程度ごとに様々なポストを経験**していただきながら、**将来的に、自分にあった分野のスペシャリスト**や**幅広い知識を持ったゼネラリスト**になっていただきます。



選考採用職員の割合（北海道農政事務所・事務系）

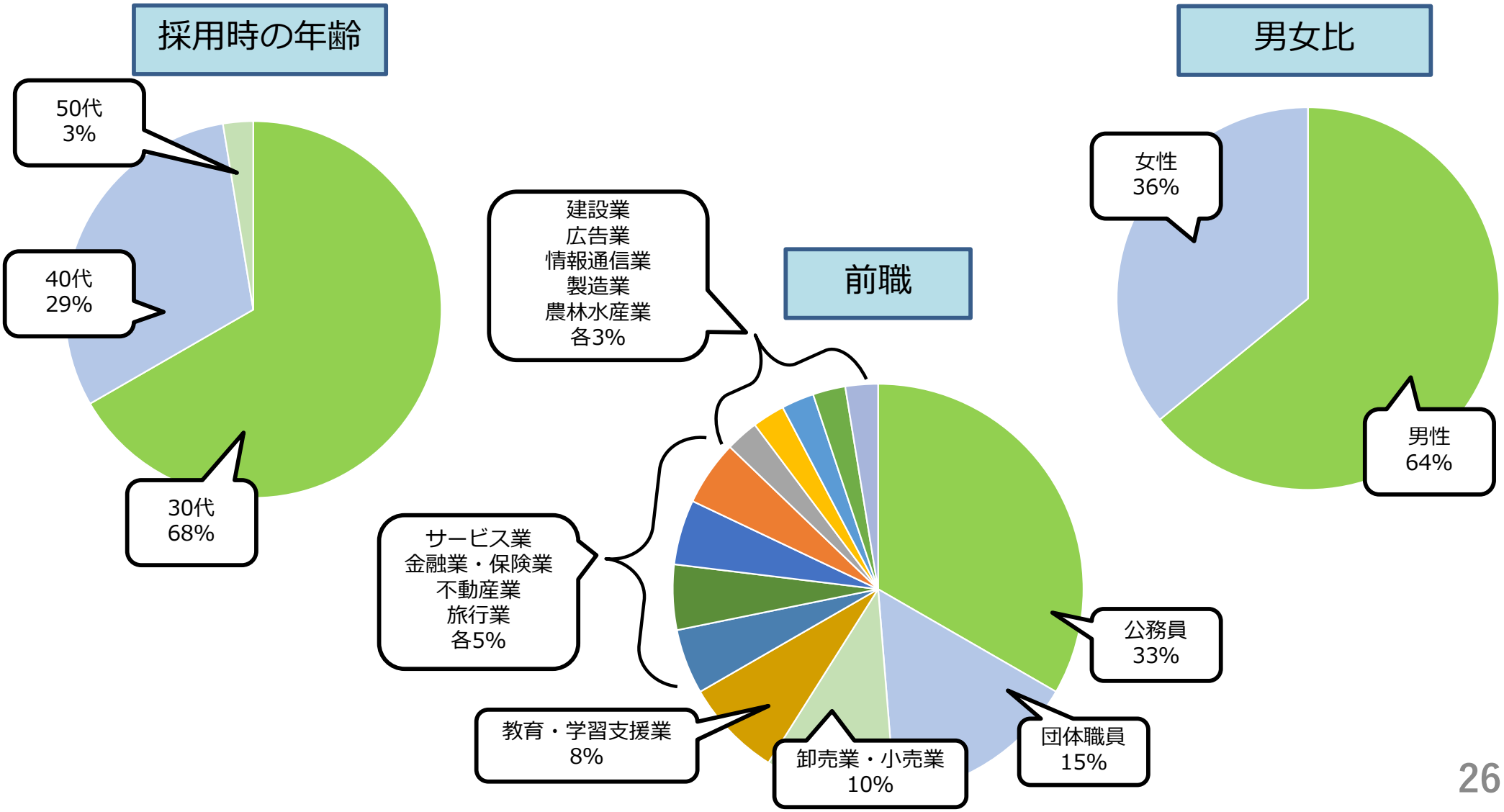
北海道農政事務所における**選考採用（経験者採用）は2020年から**始まりました。
年によって、採用者数のバラつきはあるものの、農政事務所全職員に占める**選考採用職員（事務系）の割合は年々増加**しており、今後も増加することが見込まれます。

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
採用者数	４名	11名	６名	10名	10名
選考採用割合	１％	４％	６％	８％	10%



選考採用職員関係データ（北海道農政事務所・事務系）

北海道農政事務所の選考採用職員（事務系）の**採用時の年齢は30～40代が多く**、
男女比は3：2です。
前職は、公務員を中心に幅広い業種から採用しています。



選考採用職員の紹介

（Q1.前職の内容、Q2.志望理由、Q3.現在の業務内容、Q4.職場の雰囲気）

2023年度入省　　会計課

A1　社会保険労務士として事務所に勤務し、顧問先企業の社会保険関係書類作成・行政への提出代行、就業規則等の作成、労務相談対応などを行っていました。

A2　親戚が農家だったため、以前から農業従事者の減少や食料自給率の低下などに多少の関心はありましたが、コロナ禍や世界情勢の変化による急激な食料不足などを目の当たりにし、農業分野の課題への関心が高まりました。そのような時に選考採用のことを知り、携わることができる機会だと思い、志望しました。

A3　北海道農政事務所の業務遂行に必要なものを手配する調達グループに所属しています。業務内容は供給元の選定、契約、支払に関する事務で、選定に必要な資料の収集、決裁書類の作成、請求書処理などを行っています。定期的に必要なものと各課からの依頼で随時発生するものがあり、それぞれグループ内で担当を決めて対応しています。

A4　業務を行う中で不明点や判断に迷うことが発生した場合でも、上司を含め、周囲の方に相談しやすい環境のため、スムーズに仕事を進めることができています。働き方についても職場全体で定時退庁日（ノー残業デー）を設けたり、いわゆる“お付き合い残業”が無いので、自身で計画的に業務を行うことで、仕事と家庭の両立もしやすいと思います。

受験者の方へ

私自身、公務員として働くのは初めてでしたので、今までの経験が生かせるか心配な面もありましたが、実際に働いてみると、異業種からの転職でも業務を進める上で共通する部分はあり、職務経験が役立っていると感じる場面が多くあります。また、転職というと、通常は同期がいないことが多いですが、ここでは多くの同期がいます。同じ立場で相談や雑談ができる存在がいることは心強いと思います。

選考採用職員の紹介

（Q1.前職の内容、Q2.志望理由、Q3.現在の業務内容、Q4.職場の雰囲気）

2021年度入省　生産経営産業部生産支援課

A1　前職は農協職員として勤務しておりました。農家から農産物の集荷・委託販売を行い所得向上のサポートをする等、北海道農政事務所に比べ、より身近な立ち位置で業務に従事していたと思います。

A2　近年農村地域では、高齢化や後継者・担い手不足による農業従事者の減少等が顕著であり、日本農業を持続させるうえで大きな課題であると感じます。農政事務所では、前職の経験を活かしながら業務を遂行できることや、前職とは違う目線で農業に携わることでき、自身のスキルアップと日本の農業の持続をよりサポートできるのではないかと考え志望しました。

A3　生産支援課の水田農業グループに所属しており、主に水稲の作付の調査や米の在庫調査等の業務に従事しております。米を取り扱う事業者や関係機関には、お忙しい中、各様式の提出や情報提供のご対応をいただき、いつも感謝しております。米の需給のバランスが保てるよう重要な情報をホームページ等で公表するため、責任をもって業務に励んでおります。

A4　農家や関係機関から電話等の問合せで困惑する場面がありますが、上司や先輩方がとてもやさしく、いつもサポートしてもらっています。また、福利厚生も完備されており、有休の取得がしやすいなど、とても働きやすい環境にあります。

受験者の方へ

転職をすることで、新しい環境に飛び込むことに対して不安なことが多いと思いますが、農業は食や農業機械などの他産業が連携し、成り立っている産業です。前職で農業に携わっていなくても、その知識が農業のどこかに関連し、農水省の業務に活かすことができると思っております。更なる農業発展に向け、皆様と一緒にお仕事ができることを楽しみにしております。

選考採用職員の紹介

（Q1.前職の内容、Q2.志望理由、Q3.現在の業務内容、Q4.職場の雰囲気）

2022年度入省　生産経営産業部生産支援課

A1　小・中学生向けの学習塾で勤務をしていました。教科指導はもちろんのこと、担当していた地域での教室運営、アルバイトの学生さんのマネジメント、教材作成などに携わりました。

A2　元々、北海道の基幹産業である農業に携わる仕事をしたいという思いがありました。入省したいと強く思ったきっかけは、たまたま見つけた北海道農政事務所の業務説明会に参加したことでした。農林水産業に関するプロフェッショナルとして、一次産業で北海道が今抱えている課題を一緒に解決していくという点や、何よりも「人」を大切にしたコミュニケーション重視の職場環境という点に惹かれ、志望しました。

A3　現在は生産支援課にて、主に、国の補助事業の一つである「産地生産基盤パワーアップ事業」の窓口業務を担当しています。収益力強化に計画的に取り組む産地に対し、農業者等が行う高性能な機械や施設の導入等に対して総合的に支援する事業であるため、相談から始まり事業内容の審査等、その業務は多岐に渡ります。覚えることが多く、大変な業務ではありますが、農業者等と関わりながら共に産地を盛り上げていける感覚も得られるため、とてもやりがいのある仕事です。

A4　業務説明会でのお話の通り、「人」を大切にしている職場だと感じています。職場内でのコミュニケーションがとても丁寧であることも、根底に「お互いを尊敬している」からであると思っています。また、農林水産業に関するプロフェッショナルとしての業務が様々あり、自分次第で、いろいろなことに「チャレンジができる職場」とも感じています。

受験者の方へ

北海道農政事務所は業界未経験であっても、社会人としての経験を活かせる職場です。また、転職活動は自分自身と対話を重ねた先にある「ご縁」だと思います。（私も業務説明会の案内と出会わなければ、今ここにいません（笑））生命を支える「食」や安心して暮らしていくための「環境」を守っていく責任のある仕事ではありますが、それだけやりがいもあります。ぜひ、一緒に北海道の基幹産業を盛り上げていきましょう！

選考採用職員の紹介

（Q1.前職の内容、Q2.志望理由、Q3.現在の業務内容、Q4.職場の雰囲気）

2022年度入省　生産経営産業部事業支援課

A1　前職では地方公共団体の職員として、幅広い業務に携わっていました。農業関係の部署も１年程担当しましたが、専門的な知識はありません。

A2　農業者の高齢化、後継者や担い手不足により、かなり深刻化している北海道と日本の農業について少しでも力になりたいと思い志望いたしました。

A3　入省当初は会計課に配属されており、2023年10月から事業支援課で容器包装リサイクル関係及び加工食品の輸出に関すること、有機ＪＡＳ、特別栽培表示についてなど幅広い業務に携わっており、食と深い関係のある農林水産省らしい業務を担当しております。ほぼ決まったことをやる会計課の時とは打って変わって外勤、出張が増え必要スキルと知識も180度別なものになりました。これも公務員の醍醐味の1つで内部で転職している状態です。決まったことをやるのが公務員の仕事と捉えられがちですが、どのようにしたら成果が出るかなど考えていかないといけない業務も多々あります。

A4　前職では様々な国の省庁の方と関わる機会がありましたが、正直どの省庁の方達も対応が冷たい印象があり、国と聞くと身構える癖がついていました。農業関係の部署に所属していたときに、農林水産省の方達と関わるときは牛に優しく接している酪農家の様な雰囲気を感じていました。入省後は協力して問題を解決していこうという方が多く、働き方もテレワークなどが浸透しており自由度は高く、放牧でのびのび生活している牛の気持ちです。

受験者の方へ

選考採用試験では専門、教養試験はないため、多忙な社会人に配慮されている試験になります。事務系では農業に関する専門的な知識は必要とされておりませんが、その分これまでの社会人経験で具体的な取組や成果等がしっかりと分析できており、農業に関係する人や業務においてそのキャリアが生かせるかが重要になってきます。毎年行われる試験ではないと思いますので、少しでも気になった瞬間に応募して下さい。

選考採用職員の紹介

（Q1.前職の内容、Q2.志望理由、Q3.現在の業務内容、Q4.職場の雰囲気）

2020年度入省　統計部生産流通消費統計課

A1　７年間、道内の地方公共団体で一般事務職員をしておりました。統計業務・防災・広報・地域振興・ふるさと納税・徴収等経験した業務は多岐にわたります。

A2　自身が務めている地域に残りたい気持ちもありましたが、同時に北海道に携わる仕事や大きな事に挑戦してみたいという気持ちもありました。地域全体に携わるという意味で民間も含め様々な選択肢も検討し「食」を通じて農政という観点から国全体の根幹を支えている農林水産省、その中でも自身の出身である北海道地域の根幹を担う北海道農政事務所があることを知り志望しました。

A3　現在は統計部生産流通消費統計課に所属し、国の重要な施策等の根幹となるデータである農林水産統計に関する業務を行っています。集計した結果をそのまま統計の数字にするわけではなく、集計した数字の妥当性を突き詰めるのが業務の一環です。例えば、前回や数年前の報告値との比較をし増減する要因の考察、各地域拠点と連携し情報入手や確認、生産者に回答いただいた内容を再度確認することもあり、それらの情報と導き出された数字の傾向が一致するか等の様々な要因を考慮し審査を行ったうえで決定をしています。

A4　部や課によって多少の違いはあるかと思いますが、全体的に優しい性格の方が多いのでわからないことがあれば相談しやすい印象です。とくに専門的な知識も必要となり難しい部分がありますが、上司を含め周囲に相談しやすいほか、研修も充実しているため知識を深められます。また、当所では様々な業務分野の勉強会の開催もあるため積極的に参加することで、自身の業務との関連性や今後の仕事のイメージが膨らむ部分もあるかと思います。

受験者の方へ

同期の選考採用された方と話をする機会もありますが、みなさんの経歴は様々で、前職が農林水産業とは異なる業界だったという方がほとんどです。北海道農政事務所に挑戦してみたいという気持ちがあっても、全く異なる業種等であれば、応募に踏み切れないでいる方もいるかもしれません。まずは、一歩目として今まで皆さんが培った知識や経験がどのようなものか、そして、それら全てが当所の職員としてどのように生かせるかイメージを膨らませてから、受験に挑んでいただければと思います。

選考採用職員の紹介

（Q1.前職の内容、Q2.志望理由、Q3.現在の業務内容、Q4.職場の雰囲気）

2023年度入省　札幌地域拠点

A1　道内の観光地にある硝子製品の販売店に勤めておりました。接客対応を中心に、新商品企画や販売促進、従業員育成などマネジメント業務に携わりました。

A2　前職では、笑顔で商品を購入してくださった時の嬉しさを何よりの糧としてきましたが、より多くの方の笑顔が見たい、多くの人のお役に立ちたいと思うようになりました。もともと食生活に関心を持っていたこともあり、「食」を通して人々の暮らしを豊かにしたいと思い、志望しました。

A3　札幌地域拠点に所属しており、担当する地区の農業者や関係機関に出向き、関係する事業・制度の情報提供や意見交換等、現場と農政を結ぶ業務に携わっています。また、新規就農者や有機農業等、農業の魅力を幅広く発信するべく、現場の取材を行い、札幌地域拠点のホームページに掲載する業務にも携わっています。

A4　札幌地域拠点は職員間のコミュニケーションが活発で、わからないことは上司や先輩にすぐに相談できる環境だと感じています。また、選考採用職員の交流も多く、悩みや課題を共有できていることも心強いです。前職はシフト制の勤務形態でしたが、規則的な勤務形態であることや、年次休暇の取得がしやすく、生活にメリハリがつきました。

受験者の方へ

私自身、選考採用試験の応募を知った時は、「私にはハードルが高すぎる・・・」と躊躇し、ギリギリまで応募できませんでした。しかし、前職の経験や自身の強みが入省してからどのように生かせるか少しでもイメージできれば、受験のチャンスだと思います。「日本の食料基地」と呼ばれている北海道の農業を一緒に盛り上げていきましょう。

選考採用スケジュール（2024年度）

※日程は変更となる可能性があります

8/1（木）
～
9/30（月）
12時 受信有効

選考採用申込期間

10/15（火）

第1次選考合格発表

10/16（水）
～
10/25（金）

第1次選考（書類・小論文）

※詳細は電子メールにてお知らせします。

11/15（金）
～
11/25（月）
で指定する日

第2次選考（適性検査（Ｗｅｂ））

※日程調整は電子メールにて行います。
※第2次選考の開始日が他の農政局と異なりますのでご注意ください。

11/29（金）

第2次選考（面接試験）

最終合格発表

採用

採用予定日　2025年4月1日

※採用者の事情を配慮の上、採用日を決定します。

採用関係の情報

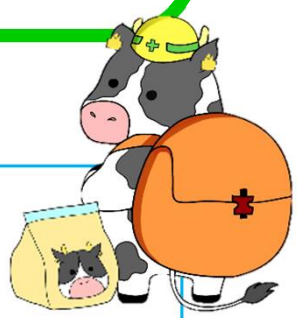
○分からないことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ先：北海道農政事務事務所総務課人事グループ】

Mail: saiyo@maff.go.jp
Tel: 011-330-8804

・選考採用の詳細や北海道農政事務所の概要がわかる！

【北海道農政事務所採用関係HP】
https://www.maff.go.jp/hokkaido/soumu/jinji/kantyouhoumon.html



マイナビ転職フェア札幌に出展します！！

日時：2024年９月7日（土）11:00～17:00　※受付 10:00～16:30

会場：札幌パークホテル　B2F　パークプラザ

https://tenshoku.mynavi.jp/event/hokkaido/20240907A/

直接お話することで、よりくわしい情報をお伝えできます。

疑問・質問にお答えする時間もありますので、お気軽にお越しください！